

令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 大島支庁沖永良部事務所農業普及課

| 課題名③ 自給飼料の確保を目指したトランスバーラの普及 | | | | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|---------|----------|---------|---|---|
| 項目 | 評価の視点 | 評価結果(人) | | | 外部委員からの 意見・提言 | 意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等 |
| | | 適当 | 概ね 適当 | 要 改善 | | |
| 課題の 設定 | ①農業者や地域が必要とする課題であるか | 5 | 2 | 0 | ・自給飼料の安定確保のためにとても良い普及活動である。 | 来年度の普及指導計画においては、重点活動として取り組むこととしている。 |
| 対象の 選定 | ②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか | 7 | 0 | 0 | 肉用牛農家には、最良の課題である。 | |
| 活動体制・活動 方法 | ③関係機関とうまく連携して活動しているか | 2 | 5 | 0 | ・農業者へのさらなる周知、情報提供が必要である。 ・ラミネートによる研修資料は良いアイデアだと思う。 | 来年度の普及指導計画においても研修会等を開催し周知、情報提供を行うこととしている。 |
| | ④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか | 4 | 3 | 0 | | |
| | ⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか | 4 | 3 | 0 | | |
| 活動の 成果 | ⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか | 2 | 5 | 0 | ・農家全体への普及をさらに進めて欲しい。 | 来年度の普及指導計画においても研修会等を開催し周知、情報提供を行うこととしている。 |
| 活動の 波及性 と改善 | ⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか | 4 | 2 | 1 | ・町内会等を通じての普及も必要である。 ・トランスバーラは、今後普及が進むと思う。 ・植付後の雑草対策が重要であると感じる。 ・境界を越えて隣地へ侵入し雑草化が心配である。 | ・来年度も、メディア等を通じ幅広く普及していくこととしている。 ・植付後、1年間は人力による雑草抜き取りは、不可欠なため、指導していくこととしている。 ・ほ場を越えての雑草化については、種子繁殖でないことと、草高が低い場合、ギニアグラスほどはないが、境界での定期的な除草剤散布等の助言を実施予定である。 |
| | ⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか | 2 | 5 | 0 | | |

令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 大島支庁沖永良部事務所農業普及課

| 課題名③ 自給飼料の確保を目指したトランスバーラの普及 | | | | | | |
|-----------------------------|-------------------------------|---------|----------|---------|--|---|
| 項目 | 評価の視点 | 評価結果(人) | | | 外部委員からの 意見・提言 | 意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等 |
| | | 適当 | 概ね 適当 | 要 改善 | | |
| 課題の 設定 | ①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか | 12 | 0 | 0 | ・自給粗飼料確保対策として非常に重要な課題である。 ・トランスバーラの有利性がよく理解できた。 | ・来年度の普及指導計画においては、重点活動として取り組むこととしている。 |
| 対象の 選定 | ②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか | 10 | 2 | 0 | ・さらなる普及が必要なため、ともにPRしていきたい。 | ・普及センターだより、畑かんだより等でのPRをはじめ、セリ前研修等での周知を図っていく。 |
| 活動体制・活動 方法 | ③関係機関と連携して活動しているか | 12 | 0 | 0 | ・緊密な連携ができています。 ・植付方法も細かに検討を重ねており、最も効果的な方法を農家に伝えることができています。 ・普及の上での植付方法や施肥についてよく研究されているので、さらに取組を進めて欲しい。 | ・来年度の普及指導計画においてはも研修会等を開催し周知、情報提供を行うこととしている。 |
| | ④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか | 11 | 1 | 0 | | |
| | ⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか | 11 | 1 | 0 | | |
| 活動の 成果 | ⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか | 9 | 3 | 0 | ・町有地での栽培状況を見て、非常に有望な牧草であると感じる。引き続き町としても普及が図られるよう協力したい。 ・畜産農家の経費削減に非常に効果的であり、栽培面積拡大が進んでいると思います。 | ・3か町毎に設置しているトランスバーラ苗供給ほ場での展示、研修会等を通じ普及していくこととしている。 |
| | ⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか | 11 | 1 | 0 | | |
| 活動の 波及性 と改善 | ⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか | 11 | 1 | 0 | ・非常に厳しい畜産経営が続いていますが、稼ぐ力の向上に寄与する活動であると考えます。 ・知名町での栽培拡大が低い理由がわからない。 | ・来年度の普及指導計画においては、重点活動として取り組むこととしている。 ・知名町においての栽培は、バレイショ後作でのソルガム作付面積等が多いこともあるが、狭い畑等での作付けを個別毎に行っていきたい。 |
| | ⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか | 9 | 3 | 0 | | |

自給飼料の確保を目指した「トランスバーラ」の普及



知名町現地研修会

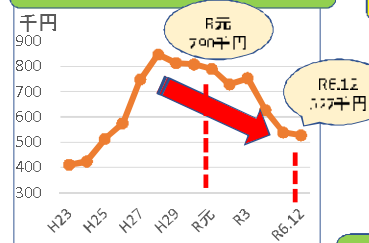
「トランスバーラ」

与論町現地研修会

大島支庁沖永良部事務所農業普及課 大久保剛

1.現状と課題

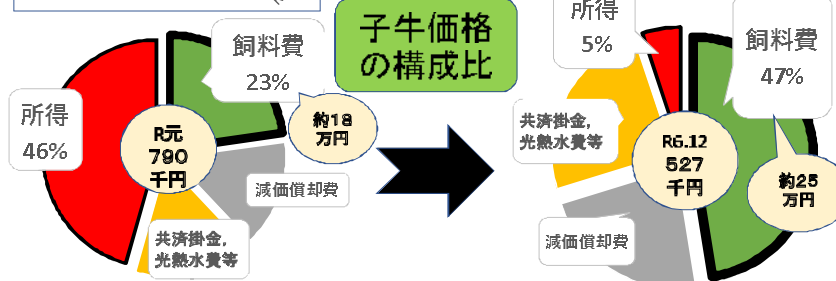
県内子牛価格(去勢離乳込み)



子牛価格低迷 飼料費高騰

子牛価格: 約26万円の下落

飼料費: 約7万円/頭の上昇



1.現状と課題 → 目標

現状・課題

- 子牛価格低迷
- 飼料費高騰
- 基幹牧草「ローズグラス」収量・品質低下



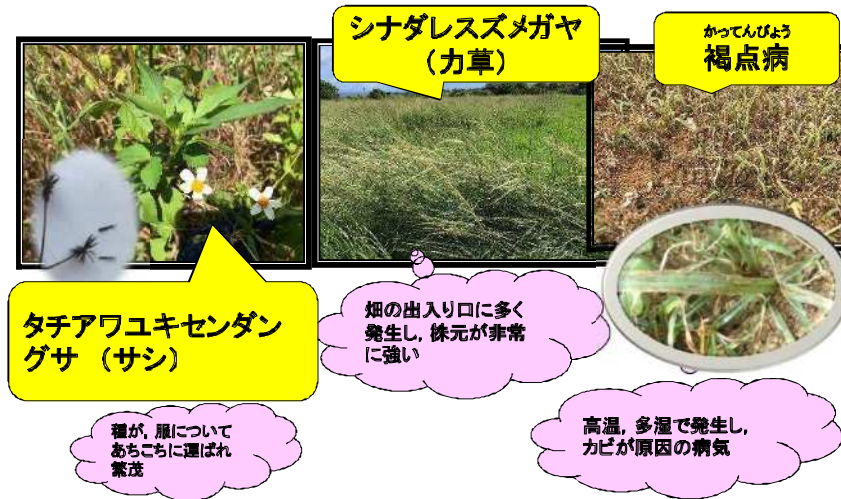
「ローズグラス」

目標

- 飼料費低減で経営安定
- 良質自給飼料の確保

1.現状と課題

ローズグラスの雑草繁茂, 褐点病による枯死



1.現状と課題 → 目標

現状・課題

- 子牛価格低迷
- 飼料費高騰
- 基幹牧草「ローズグラス」
収量・品質低下
雑草，褐点病

▲ 有望草種「トランスバーラ」
栽培低迷

目標

- 飼料費低減で
経営安定

良質自給飼料の
確保

○トランスバーラ
栽培拡大

2.活動・支援体制

沖永良部畜産部会・与論畜産部会

実証内容の企画立案
調査・分析，研修会講師

苗供給ほ場提供
研修会の開催調整

畜産部会員
スキルアップ

県農業普及課

各町

JAあまみ

共済組合

家畜保健衛生所



1.現状と課題

基幹牧草との比較

トランスバーラは，出穂が
ほぼ見られず，収量，栄
養，嗜好性ともに良好！

| | トランスバーラ | ローズグラス (基幹) |
|---------|---------|----------------|
| 収 量 性 | ◎ | ○ |
| 栄 養 性 | ○ | △ |
| 嗜 好 性 | ◎ | ○ |
| 草地永續性 | ◎ | △ |
| 草地造成の難易 | △ | ◎ |



栄養
繁殖



種子
繁殖

3.活動内容：栽培実証

- ① 最も活着が高い植付法の模索
ばらまき，株移植，条植え
- ② 植付初期の収量アップのため，カバークロップ
栽培の有利性を検証
- ③ 適正施肥量，収穫時期，栄養成分の把握



3.活動内容：栽培講習会

トランスペアラ現物によるセリ前研修会



セルトレイでの育苗(与論)



苗をもらったので、植えてみようかな...



現地体験型研修会



研修会後に苗配布(沖永良部)

4.活動成果

② カバークロップ栽培の有利性を検証

①発芽が早い牧草、で雑草を抑制

②刈取後再生しないので、トランスペアラが広がる

カバークロップとは、「被覆作物」のことで、雑草防除だけでなく、その作物(牧草)も粗飼料として利用が可能



春夏植付け実証(R5)
(デフグラス、アワ栽培)



秋の植付け実証(R6)
(イタリアンライグラス栽培)

各場の収量確保に期待!!

4.活動成果

① 最も活着が高い植付法の模索

1 ばらまき法



梅雨前でないとう失敗するリスク大

2 株植え法



活着良好だが、苗の採取に労力かかる

3 条植え法



2か月後



4.活動成果

③ 適正施肥量、収穫時期、栄養成分の把握



3か町苗供給ほ場設置と畜産部会員のスキルアップ

かん水試験(畑かん担当との連携)



・適正施肥量:窒素5kg/10a
・かん水で収量大幅アップ
・夏場1回/月、7回/年収穫が可能

4.活動成果

A3両面カラー用紙
をラミネート加工し
た栽培暦

トランスバーラ畑の栽培暦

| 栽培日 (栽培期) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
|--------------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|
| 栽培開始 | | | | | | | | | | | | |
| 栽培終了 | | | | | | | | | | | | |
| 栽培期間 | | | | | | | | | | | | |

① 収穫量調査、かんがい排水がうまくいくので、かんがい排水がうまくいけば、収穫量が増えるでしょう。
② 栽培・収穫量は、収穫量で1ha程度です。必ずききと収穫量調査が必要です。収穫量の多い地域は、収穫量の多い地域です。
③ 参考【栽培】5kg/10aの栽培量調査
かんがい排水がうまくいけば、収穫量が増えるでしょう。
かんがい排水がうまくいけば、収穫量が増えるでしょう。
かんがい排水がうまくいけば、収穫量が増えるでしょう。

表

裏

4.活動成果

○栽培開始の農家の声

ローズは3年すれば雑草だらけだが、トランスバーラは、雑草が生えないので、栽培面積を増やします。

○地域農業への貢献

管内3町は、苗供給ほ場設置等栽培拡大に積極的で、肉用牛農家飼料費低減への期待が高い

知名町苗供給畑での苗採取



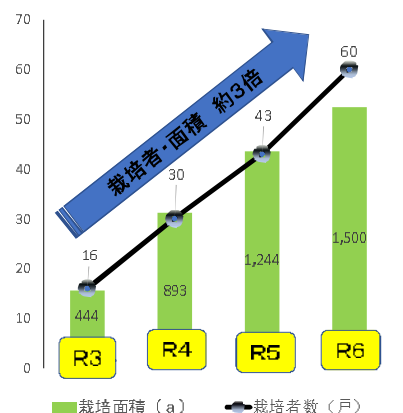
与論町農家での条植え



「トランスバーラ」草地の外観

4.活動成果

管内3町の「トランスバーラ」栽培の推移



| | 栽培者数 (戸) | | | |
|------|----------|----|----|----|
| | R3 | R4 | R5 | R6 |
| 和佐町 | 2 | 3 | 7 | 12 |
| 知名町 | 0 | 1 | 2 | 8 |
| 与論町 | 14 | 26 | 34 | 40 |
| 3か町計 | 16 | 30 | 43 | 60 |

44戸増

5.今後の課題と目標

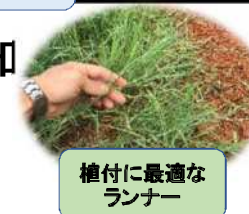
ばらまき法で
植付け失敗



トランスバーラ草地造成の失敗散見

➡ 苗植付けのポイントの周知

苗はランナー利用 &
畑の土壌水分保持



植付に最適なランナー

トランスバーラの子牛給与効果の確認

➡ 調査研究での取組



5. 今後の課題と目標

奄美群島だけでなく南西諸島 等での有効性の実証

種子島・屋久島・甬島
では？



農業の稼ぐ力を
最大に引き出
す！

